

事務事業	10009	出産・育児支援事業	担当課	健康課	担当係	健康管理係
計後 画期 体計 系画	施策	05 子どもを安心して生み育てることができるまちをつくる	予 算 科 目	会計	1	一般会計
	取り組み方針	170 親と子の健康を維持・増進する		款	4	衛生費
				項	1	保健衛生費
				目	3	母子衛生費
法令根拠条例等	母子保健法		個別計画	健康増進計画「健康しめ21」		
実施期間	<input type="checkbox"/> 30年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H27 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～ 年度	

【事業の目的・内容】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		<input type="checkbox"/> 2次評価会議に提出します (左にチェックを入れる)
低出生体重児・未熟児・双子をもつ母親に対して、訪問を産後早期に、また継続的に行うことで、育児に関する不安の軽減や支援を実施する。 また、同じ未熟児等をもつ親同士で交流する教室を開催することで、親が子どもの状態を肯定的に受け入れ、育児を積極的に行うことができるよう支援する。		
【業務内容(町職員の仕事内容)】(改行は、「Alt」+「Enter」で行ってください)		
・低出生体重児・未熟児訪問の依頼。病院からサマリーが来ているケースについては支援結果報告書の作成の依頼。支援結果報告書の郵送。 ・未熟児教室の企画・立案。対象者の抽出と通知。講師の手配。		
		講師謝礼金 48 千円 道路通行料及び駐車場使用料 1 千円 千円 千円 千円

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 30年度に行った主な活動(※箇条書きで記入) ・低出生体重児・未熟児訪問 ・未熟児教室の企画・立案。対象者の抽出と通知。講師の手配。	⇒	④ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)																																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>31年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 低出生体重児・未熟児訪問数</td> <td>件</td> <td>31</td> <td>36</td> <td>35 (見込)</td> </tr> <tr> <td>イ 未熟児教室開催数</td> <td>回</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2 (見込)</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(見込)</td> </tr> </tbody> </table>					名称	単位	29年度	30年度	31年度	ア 低出生体重児・未熟児訪問数	件	31	36	35 (見込)	イ 未熟児教室開催数	回	2	2	2 (見込)	ウ				(見込)																														
		名称	単位	29年度	30年度	31年度																																																		
		ア 低出生体重児・未熟児訪問数	件	31	36	35 (見込)																																																		
イ 未熟児教室開催数	回	2	2	2 (見込)																																																				
ウ				(見込)																																																				
⑤ 対象指標(対象の大きさを表す指標)																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>31年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 低出生体重児数</td> <td>人</td> <td>40</td> <td>42</td> <td>40 (見込)</td> </tr> <tr> <td>イ 未熟児教室対象者数</td> <td>人</td> <td>49</td> <td>20</td> <td>30 (見込)</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(見込)</td> </tr> </tbody> </table>					名称	単位	29年度	30年度	31年度	ア 低出生体重児数	人	40	42	40 (見込)	イ 未熟児教室対象者数	人	49	20	30 (見込)	ウ				(見込)																																
名称	単位	29年度	30年度	31年度																																																				
ア 低出生体重児数	人	40	42	40 (見込)																																																				
イ 未熟児教室対象者数	人	49	20	30 (見込)																																																				
ウ				(見込)																																																				
② 対象(誰、何を対象にしているのか) 低出生体重児・未熟児 双子	⇒	⑥ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)																																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>31年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ア 未熟児・低出生体重児訪問の実施率(訪問者/対象者×100)</td> <td>目標</td> <td>90.0</td> <td>90.0</td> <td>95.0</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>77.5</td> <td>94.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">イ 未熟児教室の参加率(参加者/対象者×100)</td> <td>目標</td> <td>40.0</td> <td>40.0</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>26.5</td> <td>30.0</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ウ</td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">エ</td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">オ</td> <td>目標</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					名称	単位	29年度	30年度	31年度	ア 未熟児・低出生体重児訪問の実施率(訪問者/対象者×100)	目標	90.0	90.0	95.0	実績	77.5	94.7		イ 未熟児教室の参加率(参加者/対象者×100)	目標	40.0	40.0	40.0	実績	26.5	30.0		ウ	目標				実績				エ	目標				実績				オ	目標				実績			
		名称	単位	29年度	30年度	31年度																																																		
		ア 未熟児・低出生体重児訪問の実施率(訪問者/対象者×100)	目標	90.0	90.0	95.0																																																		
実績	77.5		94.7																																																					
イ 未熟児教室の参加率(参加者/対象者×100)	目標	40.0	40.0	40.0																																																				
	実績	26.5	30.0																																																					
ウ	目標																																																							
	実績																																																							
エ	目標																																																							
	実績																																																							
オ	目標																																																							
	実績																																																							
③ 意図(この事業で、対象をどのような状態にしたいのか)		安心して妊娠・出産・育児をすることができる。																																																						

(2) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(千円)		29年度 (決算値)	30年度 (当初予算)	30年度 (決算値)	31年度 (当初予算)	32年度 (計画)	33年度 (計画)
	経費	国・県支出金、地方債等		928	2,138	1,796	2,148	2,148
受益者負担等								
一般財源			1,957	1,278	1,237	1,123	1,123	1,123
合計(A)			2,885	3,416	3,033	3,271	3,271	3,271
(内臨時・嘱託職員人件費)			2,338	3,208	2,984	3,223		
正職員人件費[按分](B)			1,048	1,274	801	1,542		
トータルコスト(A)+(B)			3,933	4,690	3,834	4,813	3,271	3,271

事務事業評価表(事業実施年度:平成30年度)

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を開始したきっかけは何ですか?いつ頃どんな経緯で開始されましたか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化していますか?	③ 事務事業に対して関係者からどんな意見や要望が寄せられていますか?(誰からの意見か明記)
平成25年度、権限委譲により未熟児養育医療、未熟児訪問、低出生体重児届出が県から町へ委譲された。それに伴い、これまで県で「妊娠期からのケア・サポート事業」として行われてきた、未熟児養育医療申請者を対象とする子育て教室を平成27年度より町が引き継ぎ、ハイリスク妊産婦の支援を行うこととした。	未熟児は正常で出生した児に比べ、成長発達が緩やかで保護者は不安を抱えやすい。また、突然の出産で小さく産んでしまったことへの罪悪感等を母親は抱きやすく、子どもを受け入れることが難しい場合もあり、町で継続的に支援していくことは虐待予防の観点からも必要である。	未熟児教室は平成27年度より町で実施を始めた。教室後のアンケートより、「同じ未熟児を持つ親と交流できたことがよかった」「遊び方のヒントがもられた」という声が聞かれた。

(4) 昨年度の評価結果の取り組み状況調べ

昨年度の事務事業評価結果		30年度の取り組み状況と今後の方針	
事業の方向性	平成30年度の取り組み概要及び期待される効果	実施状況	実施できなかった理由と今後の方針
<input type="checkbox"/> 廃止・休止 <input type="checkbox"/> 目的の見直し <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善 <input type="checkbox"/> 効率性改善 <input type="checkbox"/> 事務事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	・未熟児訪問は継続して実施。 ・未熟児教室の対象を平成29年・平成30年度生まれの①未熟児・在胎週数37週かつ2500g以下の子、②双子・多胎児の子にする。 ・教室開催が1回目と2回目2か月期間が空くため、開催周知について検討する必要がある。	<input type="checkbox"/> 記述どおり実施できた(コメント必要ありません) <input checked="" type="checkbox"/> 一部実施できた(理由→) <input type="checkbox"/> 実施できなかった(理由→)	未熟児と多胎児のみでは、教室対象者が少なかったため、「平成29・30年度に養育訪問を受けた子」「平成29・30年度生まれでH30年度にOT相談を受けた子」も加え、養育支援の場として実施した。 また、今年度は1回目と2回目の教室開催期間が2か月であったため、来年度は1か月で実施する予定である。

2 評価(SEE)及び全体総括の部 * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

(1) 評価

	評価の理由
目的妥当性評価 ① 上位施策への貢献度は大きいですか? ※総合計画を参照してください <input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう(理由→) <input type="checkbox"/> 貢献度小さい(理由→)	未熟児の出産は小さく産んでしまったことへの罪悪感等を母親は抱きやすく、子どもを受け入れることが難しい場合もあり、双子は育児負担が大きいため、町で早期に継続的に支援していくことは虐待予防の観点からも必要であり貢献度は大きいと考える。
② 税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか? (事業の目的は、総合計画の町の役割や基本方針に合っていますか?) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(理由→) <input type="checkbox"/> 妥当性が低い(理由→)	未熟児は正常で出生した児に比べ、成長発達が緩やかで親の不安が大きいが、同じような子をもつ親と出会う機会が少ない。また、双子も外出するのが大変で同じように双子をもつ親と出会うことが少ない。出生後早期に関わることで、育児不安の軽減と同じような立場の親と知り合う場の提供ができる。これは、地域の状況を知っている行政だからできることであり、税金を使って行う意義は高いと考える。
有効性評価 ③ 成果がこれ以上向上する余地(可能性)はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地がある(理由→) <input type="checkbox"/> 成果向上余地がない(理由→)	実施後のアンケートより、参加者の満足度は高く、内容も日々の育児の参考になるようであった。しかし、参加率は目標より低かった。特に2回目の教室の方が参加者が少ない傾向にある。2回目の教室は開催通知から2か月以上後での開催あることが原因の一つとも考えられるため、教室開催期間を短縮して実施することで参加者の増加を図る。
評価 ④ 廃止・休止した場合、成果への影響はありますか? <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり(理由→) <input type="checkbox"/> 影響なし(理由→)	町内で同様の事業の実施はなく、その他で支援するものはない。
効率性評価 ⑤ 現状の成果を落とさずにコスト(予算+事務従事時間)を削減する新たな方法はありますか?(広域連携や民間委託等の導入など) <input type="checkbox"/> ある(具体的な内容→) <input checked="" type="checkbox"/> ない(理由→)	未熟児の訪問や教室は専門的な視点が必要であるため、人件費の削減は難しい。

(2) 30年度を振り返って(全体総括・反省点)

未熟児と多胎児のみでは、教室対象者が少なかった。2歳になると保育園へすでに入園している方が多く参加率が低いとの結果が以前出ているため、対象年齢を広げるのではなく、対象に「H29・30年度に養育訪問を受けた子」「H29・30年度生まれでH30年度にOT相談を受けた子」を加え、養育支援の場として実施した。アンケート結果から、教室内容については満足度が高く、日々の育児に取り入れやすいものであったと思われる。また、交流会でも小さく生まれた子の育児だけでなく、同じ月齢の子の育児について自然と話が盛り上がり、今後も教室を開催する必要性を感じた。

3 今後の方向性(31年度以降の計画と32年度予算への反映)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) <input type="checkbox"/> 廃止・休止(理由→) <input type="checkbox"/> 目的の見直し(内容→) <input checked="" type="checkbox"/> 有効性改善(成果向上)内容→ <input type="checkbox"/> 効率性改善(コスト削減)内容→ <input type="checkbox"/> 事業終了 <input type="checkbox"/> 現状維持・継続	(2) 平成31年度以降に取り組む内容と期待される効果 参加者数を増やすため、H30年度は1回目と2回目の教室開催期間に2か月かけていたところを、R1年度は1か月に短縮して実施する予定である。未熟児と多胎児の参加者が少ない場合は、H30年度と同様に養育訪問を受けた子やOT相談を受けた子も加え、養育支援の場として実施していく。
---	---